

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金過不足	10,000	受取手数料	6,000
			雑益	4,000
2	売掛金	27,000	売上	27,000
3	仕入	200,000	前払金	150,000
			買掛金	50,000
4	備品減価償却累計額	100,000	備品	300,000
	未収入金	50,000		
	固定資産売却損	150,000		
5	仮払金	100,000	現金	100,000

・解説

1. 現金過不足に関する問題です。

問題文の「現金の実際有高が帳簿残高より多かったため、現金過不足勘定で処理されていた ¥ 10,000」から、帳簿残高を実際有高に合わせるために以下の仕訳を切っていたことが分かります。

☆参考・現金のズレを調整したときの仕訳

(借) 現金 10,000 / (貸) 現金過不足 10,000

現金過不足の仕訳を考えるさいは常に実際有高に合わせるのがポイントです。本問の場合、実際有高のほうが 10,000 円多いので、同額だけ現金の帳簿残高を増やしてズレを調整します。

上記の仕訳から、貸方に現金過不足 10,000 が計上されていることが分かるので、まず、現金過不足の残高をゼロにするために同額を借方に計上します。

★ステップ 1・現金過不足の残高をゼロにする

(借) 現金過不足 10,000

次に、問題文に「¥ 6,000 は受取手数料の記入漏れであることが決算日にいたり判明」とあるので、記入漏れが判明した受取手数料をそのまま計上します。

★ステップ 2・原因が判明したものを正しく処理する

(借) 現金過不足 10,000 / (貸) 受取手数料 6,000

最後に、貸借差額を雑損または雑益で処理します。

★ステップ 3・貸借差額を雑損または雑益で処理する

(借) 現金過不足 10,000 / (貸) 受取手数料 6,000
(貸) 雑益 4,000

現金過不足の決算整理仕訳は、上記の3ステップにあてはめて考えると分かりやすいです。

現金過不足に関する問題は、第110回の間4や第111回の間4、第117回の間1、第123回の間2、第133回の間4、第135回の間1、第142回の間5、第147回の間1、第150回の間3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 訂正仕訳に関する問題です。

訂正仕訳に関しては以下の流れで機械的に処理することが出来るので覚えてください。

- ① 間違って切ってしまった仕訳を書き直す
- ② ①の逆仕訳を書き直す
- ③ 正しい仕訳を書き直す
- ④ ②と③の仕訳をまとめる

それでは、本問の仕訳を当てはめて確認してみましょう。問題文に「商品 ¥ 96,000 を掛けで売り渡した取引を、借方・貸方とも誤って ¥ 69,000 と記入されていた」とあるので、金額を間違って切ってしまった仕訳は以下の通りです。

☆① 間違って切ってしまった仕訳を書き直す

(借) 売掛金 69,000 / (貸) 売上 69,000

次に「①の逆仕訳」を考えますが、これは単純に貸借を逆にするだけなので簡単です。

☆② ①の逆仕訳を書き直す

(借) 売上 69,000 / (貸) 売掛金 69,000

さらにその次に正しい仕訳を考えますが、商品を売り上げた結果、売掛金が96,000円増えただけなので特に問題ないと思います。

☆③ 正しい仕訳を書き直す

(借) 売掛金 96,000 / (貸) 売上 96,000

最後に②と③の仕訳をまとめます。

★④ ②と③の仕訳をまとめる

(借) 売上 69,000	/	(貸) 売掛金 69,000
(借) 売掛金 96,000	/	(貸) 売上 96,000
27,000		27,000

訂正仕訳に関する問題は、第112回の間5や第134回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 仕入取引に関する問題です。

この問題は【前払金に関する仕訳】【買掛金に関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

【前払金に関する仕訳】

問題文に「代金のうち ¥ 150,000 はすでに支払ってある手付金で充当し」とあるので、手付金支払時の仕訳を考えたいので解答を導き出すと分かりやすいです。

☆手付金支払時の仕訳（既に切られた仕訳）

(借) 前払金 150,000 / (貸) 現金など 150,000

★解答①

(借) 仕入 150,000 / (貸) 前払金 150,000

【買掛金に関する仕訳】

問題文に「残額は掛けとした」とあるので、通常の掛け仕入の仕訳をするだけです。

★解答②

(借) 仕入 50,000 / (貸) 買掛金 50,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

ほとんど同じ問題が第128回の間3でも出題されていますが、どちらも絶対に落としてはいけない問題です。

4. 固定資産の売却・未収入金に関する問題です。

固定資産は期首に売却する場合と、期中（または期末）に売却する場合とで処理が異なるので、まず問題がどちらに該当するのか確認しましょう。

■期首に固定資産を売却する場合

当期の減価償却費はゼロなので、取得原価から期首備品減価償却累計額を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

売却時の帳簿価額 = 取得原価 - 期首備品減価償却累計額

■期中（または期末）に固定資産を売却する場合

当期の減価償却の処理に関する指示が入るので、それによって当期の減価償却費を（月割で）計算します。そのうえで、取得原価から期首備品減価償却累計額 & 当期の減価償却費を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

売却時の帳簿価額 = 取得原価 - 期首備品減価償却累計額 - 当期の減価償却費

■本問はどっち？

本問は、問題文の「不要となった備品を期首に処分」から期首に売却したことが分かります。

また、問題文の「減価償却累計額 ¥ 100,000」から期首備品減価償却累計額の金額が分かるので、取得原価からこれを差し引いて売却時の帳簿価額を計算します。

取得原価 300,000 円－期首備品減価償却累計額 100,000 円＝売却時の帳簿価額 200,000 円

最後に、売却時の帳簿価額と売却価額との差額で売却損益を計算します。売却価額 50,000 円は商品売買以外の取引で発生した債権なので、売掛金ではなく未収入金で処理します。

- ・売却時の帳簿価額＝200,000 円
- ・売却価額＝50,000 円
- ・差額＝150,000 円（帳簿価額＞売却価額…**売却損**）

★解答仕訳

(借) 備品減価償却累計額 100,000 / (貸) 備 品 300,000
(借) 未 収 入 金 50,000
(借) 固 定 資 産 売 却 損 150,000

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2や第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 119 回の問 5、第 120 回の問 1、第 122 回の問 5、第 132 回の問 2、第 134 回の問 1、第 135 回の問 3、第 136 回の問 2、第 137 回の問 3、第 138 回の問 2、第 142 回の問 1、第 146 回の問 2、第 149 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 仮払金に関する問題です。

旅費の正確な金額は、従業員の出張後でなければ把握できないので、とりあえず**一時的に仮払金で処理**しておき、旅費交通費の正確な金額が判明したときに、仮払金を旅費交通費に振り替えます。

なお、その後、旅費交通費の正確な金額が確定し、旅費を精算する場合の仕訳が問われる場合もあります。参考までに仕訳をご確認ください。

☆類題①…仮に旅費が 120,000 円だった場合の仕訳

(借) 旅費交通費 120,000 / (貸) 仮払金 100,000
(貸) 現 金 100,000

☆類題②…仮に旅費が 80,000 円だった場合の仕訳

(借) 旅費交通費 80,000 / (貸) 仮払金 100,000
(借) 現 金 20,000

仮払金に関する問題は、第 100 回の問 4や第 110 回の問 3、第 119 回の問 4、第 124 回の問 4、第 129 回の問 4、第 146 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。